

て、今日六日とて親族集り、はじめ髪垂る祝言より、此子はそなはりて野郎下地なり、仔細は今からさへ鬢付の色濃く、首筋髪際まで、此美しみならびなき太夫になるべしと、なほ嬰兒總角の比より朝暮大事に掛けて育てける程に、○下

〔嬉遊笑覽三書畫〕西鶴大鑑七 猿に袴をきせ、楊枝屋の看板とすることをいへり、齒の白きにとるにや、

〔江戸總鹿子名所大全五〕新材木町南通北ハ新材木町 此町筋商家大概
材木 竹や よしすや もとゆい やうじ略 中

御堀はた通南ハ數寄や橋より、北ハ鎌倉河岸迄、 此町筋諸職商家やうじや。

〔江戸名所圖會十六〕金龍山淺草寺 楊枝店

境内、楊枝を鬻ぐ店甚多し、柳屋と稱するものをもて本源とす、されど今は其家號を唱ふるもの多く、竟に此地の名産とはなれり、

〔近世奇跡考四〕淺草楊枝店始原

寛永の頃は、店をかまへず、ちいさき長櫃やうのもの、うへに茶筌と楊枝をならべおきて賣けるよし、其頃の者十餘人、今に楊枝をあきなひて、櫃親といふ或云これ櫃の上にて物を賣たる證の今に残れる也、今觀音堂におきて、追儼をおこなふ時、鬼に扮するは、彼櫃親等のつとむる古例なりとぞ、以上、淺草菴主人、大垣市人、彼ひつがおやのう、ち、古老のもの、い説なりとてものがたりき、

〔嬉遊笑覽二中〕江戸にて、楊枝商人の多きは、淺草寺境内に勝る處なし、此商人古くより有しとなむ、昔は茶筌と楊枝を櫃のうへに并べ置て賣たりとぞ、是寛永頃よりありしものといへるはおぼつかなし、

〔空華日工集〕應安五年二月十二日、赴長壽寺、府君光伴之筵、官伴管領及弟侍中、愛甲三品僧壁少室